

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2、3学年において、達成率が全国平均を上回った。
- ・第2、3学年において、達成率が昨年度とほぼ同等となった。

(2) 課題

- ・基礎的な計算力の定着
- ・数学的思考力の向上
- ・思考、判断を必要とする課題に対する理解・読解力

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	区の平均より0.4ポイント下回ったが、全国平均より1.1ポイント、目標値より2.4ポイント上回った。		
第2学年	区の平均より2.8ポイント、全国平均より5.3ポイント、目標値より3.3ポイント上回った。	全国平均より0.4ポイント、区の平均より2.3ポイント、目標値より3.0ポイント上回った。	
第3学年	目標値より0.9ポイント下回ったが、区の平均より1.4ポイント、全国平均より5.3ポイント上回った。	目標値より0.9ポイント下回ったが、区の平均より0.5ポイント、全国平均より4.4ポイント上回った。	全国平均より1.9ポイント、区の平均より0.7ポイント下回ったが、目標値より4.0ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を0.7ポイント下回り、目標値を2.7ポイント上回った。	区の平均を0.3ポイント上回り、目標値1.5ポイント上回った。	区の平均を2.0ポイント上回り、目標値を0.9ポイント下回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均より3.6ポイント上回り、目標値を4.9ポイント上回った。	区の平均より1.6ポイント上回り、目標値を2.6ポイント下回った。	区の平均より3.7ポイント上回り、目標値を2.4ポイント下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を0.1ポイント下回り、目標値を1.6ポイント下回った。	区の平均を2.0ポイント上回り、目標値を1.0ポイント上回った。	区の平均より1.8ポイント上回り、目標値を0.1ポイント下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形分野はやや達成率が高いものの、特に分数、小数を含む除法や、平行四辺形や円の面積を求める問題において課題がみられる。副教材等を用いた復習や計算テストを実施し、定着させていく。	やや長い文章から情報を読み取る問題や、自分の考えを言葉にして表現することに課題がみられる。グループ学習の話し合い活動を通じて、様々な考え方や見方にふれることで、表現力を高めていく。	定期的に行う小テストや単元テスト、単元ごとにまとめる振り返りワークシートの作成で、要点をまとめることで、自分の課題を認識し、主体的に学習に取り組む姿勢や態度を養う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算は概ねできているが、比例・反比例の値の変化と度数分布表から相対度数を求める問題や分布の範囲を求める問題において課題がみられる。授業内で復習を行うことで定着させていく。	問題に対して方程式を用いて適切に立式する力や、示された式や図や表から読み取り説明する力に課題がみられる。グループ学習の話し合い活動を通じて、様々な考え方や見方にふれ、自分の考えを説明する力を養う。	出題範囲を狭めた小テストや単元ごとにまとめる振り返りワークシートの作成を通じて、主体的に学習に取り組む姿勢を養うとともに、自らの課題を認識し自己解決できる力をつけていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識は概ね定着している。計算や角度を求める課題では、様々な解法を共有することで、「どの解法がより合理的か」を考えさせる。少ない情報しか与えられていない課題でも解答を導き出せる処理能力を高めていく。	思考・判断を必要とする課題を読み取る力が不足している。具体的には連立方程式の解を求めることはできるが、式の意味を読み取る力が弱い。授業の中で、数式の持つ意味を「言語」を通じて共通理解を図りながら進めていく。	授業での小テスト、振り返りを通して、自己分析し、自分の課題に向けて、主体的に取り組む姿勢や態度を養う。また、情報を整理し、図や表にまとめる力を高めさせる。その際にグループ学習を有効に活用していく。

